

さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画

平成 27 年 12 月 28 日策定

伊平屋島

策定主体：伊平屋島さとうきび増産プロジェクト会議

さとうきび生産における基本的考え

【前計画（平成 18 年～平成 27 年）の達成状況の検証・評価】

(1) 数値目標の達成状況の検証

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 16 年産(策定時)	65	5	6	76	4.2	2.8	5.0	4.2	2,714	124	313	3,151
平成 22 年産 (目標)	62	4	12	78	4.6	2.8	3.3	4.3	2,852	123	396	3,371
(実績)	58	6	30	93	4.8	2.8	5.0	4.7	2,778	153	1,481	4,412
(達成度 (%))	(93.5)	(139.0)	(247.7)	(119.6)	(104.1)	(98.3)	(151.0)	(110.0)	(97.4)	(124.4)	(374.0)	(130.9)
平成 27 年産 (目標)	70	4	13	87	5.3	3.3	5.0	5.2	3,710	145	650	4,505
平成 26 年産 (実績)	63	8	35	106	3.8	2.0	2.5	3.2	2,412	162	867	3,441
(達成度 (%))	(89.9)	(203.0)	(268.2)	(121.7)	(72.3)	(60.5)	(49.8)	(62.5)	(65.0)	(111.7)	(133.4)	(76.4)

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 17 年度 (策定時)	3	—	1	3
平成 22 年度 (目標)	14	—	1	14
(実績)	2	—	—	2
(達成度 (%))	(14.3)	—	—	(14.3)
平成 27 年度 (目標)	19	—	1	19
平成 26 年度 (実績)	2	—	1	2
(達成度 (%))	(10.5)	—	(100)	(10.5)

## (2) 評価

### ① 前計画で挙げた課題

- ・ 高齢化の進行と担い手の不足
- ・ 水源整備、かんがい施設整備の遅れとほ場内の石れき除去
- ・ 土壌は国頭マージで耕土が浅く干ばつの被害を受けやすいうえに有機物が少ない
- ・ 中型ハーベスタ体系の収穫となっておりトラッシュ率が高い
- ・ 防風・防潮林の整備の遅れ
- ・ 適期植付、適期肥培管理及びかん水の不徹底

### ② 課題に対する取組内容

- ・ 水源整備、かんがい施設整備を進める。
- ・ 団体営農地保全整備事業による石礫除去を行う。
- ・ 土壌分析及び土づくり講習会を行う。
- ・ 緑肥栽培の普及啓発及び種子の配布を行う。
- ・ 団体営農地保全整備事業による防潮・防風林整備を行う。
- ・ 適期肥培管理等の基本技術普及のため栽培講習会を実施する。

### ③ 解決した課題

- ・ 株出栽培の推進により栽培面積が増加した。
- ・ 小型ハーベスタ体系の導入によりトラッシュ率が減少した。

### ④ 依然として残っている課題

- ・ 農家の高齢化が進行し、新規就農者等の担い手が不足している。
- ・ かんがい施設整備の推進とほ場内の石れき除去を行う必要がある。
- ・ 堆肥や緑肥による土づくりの推進を図る必要がある。
- ・ 適期植付、適期肥培管理及びかん水が徹底されていない。
- ・ 害虫対策として適期の薬剤散布を実施する必要がある。

### ⑤ 新たに生じた課題

- ・ 古いハーベスタの更新
- ・ ハーベスタオペレータの確保及び技術向上
- ・ 農作業受委託組織の育成

【新たな目標】

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t / 10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計
平成 26 年産 (現状)	63	8	35	106	3.8	2.0	2.5	3.2	2,412	162	867	3,441
平成 28 年産 (目標)	46	10	64	120	5.1	2.0	3.7	4.1	2,346	200	2,368	4,914
平成 29 年産 (目標)	44	10	66	120	5.1	2.0	3.7	4.1	2,244	200	2,442	4,886
平成 30 年産 (目標)	42	10	68	120	5.1	2.0	3.7	4.0	2,142	200	2,516	4,858
平成 31 年産 (目標)	40	10	70	120	5.1	2.0	3.7	4.0	2,040	200	2,590	4,830
平成 32 年産 (目標)	39	11	60	110	5.1	3.2	4.1	4.4	1,989	352	2,460	4,801
平成 37 年産 (目標)	33	11	66	110	5.0	3.5	4.5	4.5	1,650	380	2,970	5,000

(2) 担い手育成目標

区分	認定農業者	特定農業団体	受託組織	大規模生産農家
平成 27 年度 (現状)	2	—	1	2
平成 32 年度 (目標)	10	—	3	10
平成 37 年度 (目標)	15	—	6	15

(3) 目標達成に向けた取組方向

- ・担い手不足対策として集落営農組織の立ち上げ・法人化
- ・かんがい施設やため池の整備推進及び適期かん水の実施
- ・台風被害の軽減を図るため防風・防潮林の整備
- ・石礫除去の推進と心土破碎による土壌の物理性の改善
- ・堆肥等有機物の畑地還元や緑肥作物の栽培等による土づくり
- ・株出管理機等を活用した適期肥培管理の推進による単収向上
- ・黒糖向けで耐風性に優れた品種や多収性の品種の普及推進
- ・雑草防除及び薬剤施用等によるイネヨトウ防除の推進

1. 目標達成に向けた取組計画

(1) 経営基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																						
<p>①農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫作業はハーベスタ体系が確立されているが、受託組織の整備が遅れている。担い手の不足と高齢化により農地流動化が進んでいない。</li> <li>・耕作放棄地再生利用緊急対策事業を導入し、ほ場の確保に努めた。</li> <li>・農業体質強化基盤整備促進事業を導入しほ場の確保に努めた。</li> <li>・認定農業者等に対し、経営診断及び技術指導等を実施した。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <p>①担い手の数：9経営体 (認定農業者2名、人・農地プラン担い手7名)</p> <p>②生産法人数：0</p> <p>③生産法人構成員数・面積：0人・0ha</p> <p>④基幹作業別の担い手の面積</p> <table border="1" data-bbox="465 954 1088 1184"> <thead> <tr> <th></th> <th>耕起・ 畝立</th> <th>植付</th> <th>収穫</th> <th>株出 管理</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>9</td> <td>14</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>特定農業団体</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>受託組織</td> <td>90</td> <td>4</td> <td>106</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大規模農業者</td> <td>24</td> <td>60</td> <td>0</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>123</td> <td>78</td> <td>106</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑤遊休農地の実態：7ha</p>		耕起・ 畝立	植付	収穫	株出 管理	認定農業者	9	14	0	4	特定農業団体	—	—	—	—	受託組織	90	4	106	0	大規模農業者	24	60	0	24	合計	123	78	106	28	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者の育成</li> <li>・受託組織（農業生産法人）の育成</li> <li>・遊休農地の有効活用</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者及び担い手、生産法人、受委託組織の育成を図る</li> </ul> <p>&lt;今後5年間の取り組み目標、計画&gt;</p> <table border="1" data-bbox="1155 916 1805 1050"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31</th> <th>H32</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>担い手の数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>生産法人数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>受託組織</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※生産法人は集落営農組織</p>		H28	H29	H30	H31	H32	担い手の数	10	10	11	11	12	生産法人数	1	2	2	3	3	受託組織	2	3	3	4	4	
	耕起・ 畝立	植付	収穫	株出 管理																																																					
認定農業者	9	14	0	4																																																					
特定農業団体	—	—	—	—																																																					
受託組織	90	4	106	0																																																					
大規模農業者	24	60	0	24																																																					
合計	123	78	106	28																																																					
	H28	H29	H30	H31	H32																																																				
担い手の数	10	10	11	11	12																																																				
生産法人数	1	2	2	3	3																																																				
受託組織	2	3	3	4	4																																																				

**【課題】**

- ・農家高齢化及び新規就農者等担い手の不足に伴い、安定的な農業経営体の育成のため、生産法人等の設立が必要である。
- ・担い手不足解消のため、認定農業者数の増加を図る必要がある。
- ・管理作業の受託組織整備が遅れている。

**【計画】**

- ・担い手として認定農業者を育成するため、経営改善計画等の作成を支援する。
- ・各字を単位に受託組織として、農業生産法人の設立を推進する。
- ・受託組織への作業受委託推進による高齢農家作業負担の軽減を図る。
- ・農地中間管理事業の活用による担い手への農地集積を図る。

## ②農業共済制度への加入促進

**【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】**

- ・平成16年度の加入率は66.4%と県平均より高いが、台風、干ばつ等自然災害を受けやすい地域であり、経営基盤を強化するには、一層の加入促進を図る必要がある。
- ・危険段階別共済掛金率を導入し畑作共済の加入を図った。
- ・連絡員講習会を開催し、制度の周知を図った。

**【現状】**

## &lt;畑作物共済加入状況（H26年）&gt;

加入戸数	37戸
戸数加入率	72.5%
加入面積	92.6ha
面積加入率	75.8%
支払金額	3,213千円

参考：有資格戸数51戸、面積122.23ha

**【取組の方向】**

- ・共済制度の周知、加入促進、引受推進

**【目標】**

## &lt;畑作物共済加入目標&gt;

	H28	H29	H30	H31	H32
加入戸数(戸)	40	42	44	45	46
戸数加入率(%)	78.4	82.4	86.3	88.2	90.2
加入面積(ha)	96.1	99.6	103.1	106.6	110.1
面積加入率(%)	78.6	81.5	84.4	87.2	90.1

参考：51戸、122.23ha（H26有資格戸数、面積）

	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風、干ばつ等の自然災害を受けやすい地域であるため、より一層の加入促進を図る必要がある。</li> <li>・小規模生産農家の加入率が低い。</li> <li>・共済制度への理解不足。</li> </ul>	<p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共済制度への理解を得るため、支部単位での共済制度説明会を開催し、加入推進に努める。</li> <li>・生産組合の活動等と連携して、制度の周知、加入推進を図る。</li> </ul>	
--	--	--	--

(2) 生産基盤の強化

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考																																																										
①作型の選択	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏植、春植の収穫面積を維持し、株出面積を8ha増加する。</li> <li>・株出推進講習会や適期肥培管理講習会等の開催により株出面積が増加した。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <p>&lt;作型別面積割合(%)&gt;</p> <table border="1" data-bbox="483 932 909 1067"> <thead> <tr> <th></th> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H16</td> <td>85.5</td> <td>6.6</td> <td>7.9</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>62.0</td> <td>6.0</td> <td>32.0</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>59.4</td> <td>7.6</td> <td>33.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;単収推移 (kg/10a) &gt;</p> <table border="1" data-bbox="483 1126 1014 1331"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>4,859</td> <td>3,258</td> <td>4,328</td> <td>4,574</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>4,790</td> <td>2,751</td> <td>4,983</td> <td>4,730</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>2,769</td> <td>1,605</td> <td>1,860</td> <td>2,244</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>3,388</td> <td>2,503</td> <td>2,106</td> <td>2,887</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>3,563</td> <td>1,974</td> <td>2,290</td> <td>2,973</td> </tr> </tbody> </table>		夏植	春植	株出	H16	85.5	6.6	7.9	H22	62.0	6.0	32.0	H26	59.4	7.6	33.0	年度	夏植	春植	株出	合計	H22	4,859	3,258	4,328	4,574	H23	4,790	2,751	4,983	4,730	H24	2,769	1,605	1,860	2,244	H25	3,388	2,503	2,106	2,887	H26	3,563	1,974	2,290	2,973	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株出栽培の推進</li> <li>・適期株出管理作業の推進</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <p>&lt;作型別面積割合(%の目標)&gt;</p> <table border="1" data-bbox="1162 932 1588 1034"> <thead> <tr> <th></th> <th>夏植</th> <th>春植</th> <th>株出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H32</td> <td>35.5</td> <td>10.0</td> <td>54.5</td> </tr> <tr> <td>H37</td> <td>30.0</td> <td>10.0</td> <td>60.0</td> </tr> </tbody> </table>		夏植	春植	株出	H32	35.5	10.0	54.5	H37	30.0	10.0	60.0	
	夏植	春植	株出																																																										
H16	85.5	6.6	7.9																																																										
H22	62.0	6.0	32.0																																																										
H26	59.4	7.6	33.0																																																										
年度	夏植	春植	株出	合計																																																									
H22	4,859	3,258	4,328	4,574																																																									
H23	4,790	2,751	4,983	4,730																																																									
H24	2,769	1,605	1,860	2,244																																																									
H25	3,388	2,503	2,106	2,887																																																									
H26	3,563	1,974	2,290	2,973																																																									
	夏植	春植	株出																																																										
H32	35.5	10.0	54.5																																																										
H37	30.0	10.0	60.0																																																										

	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農家高齢化に伴い、ハーベスタ採苗による種苗選別及び植付の労働力確保が困難になりつつあり、夏植から株出への移行を推進する必要がある。</li> <li>・適期株出管理や雑草防除が徹底されておらず、株出の単収が低いため、夏植を更新する農家がいる。</li> </ul>	<p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培講習会等で適期株出管理作業や雑草防除の有益性を周知し、株出への移行を推進するとともに単収向上を図る。</li> <li>・株出管理機等の導入により、管理作業の負担低減を図り、適期作業を推進する。</li> </ul>	
<p>②気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <p>①防風・防潮林の整備</p> <p>②かんがい施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石礫除去事業によりほ場内の整備を行った。</li> <li>・水源確保を積極的に推進した。</li> <li>・防災農業の推進に取り組むため、ポスター等を活用して農地防風林の重要性について普及啓発を行った。</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <p>&lt;農業基盤整備の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地基盤整備率：84.9%</li> <li>・畑地灌漑整備率：74.4%</li> <li>・水源整備率：92.0%</li> <li>・農地防風林整備率：90.2%</li> </ul> <p>※平成26年度までの実績見込み</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場整備は進んできているが、石礫が多く、栽培管理に支障をきたしている。</li> <li>・水源整備、かんがい施設整備を引き続き推進し、干ばつ等による被害を軽減を図る必要がある。</li> <li>・農地防風林の整備・管理が必要である。</li> <li>・耕土流出を防ぐため、グリーンベルトの設置が必要である。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石れき除去事業の推進</li> <li>・かんがい施設の整備の推進</li> <li>・農地防風林の整備・管理</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <p>&lt;農業基盤整備の目標（H33年度）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土地基盤整備率：84.9%</li> <li>・畑地灌漑整備率：74.4%</li> <li>・水源整備率：100%</li> <li>・農地防風林整備率：94.0%（2地区）</li> </ul> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内に多くの石れきがあるため、継続して除去事業等での改善に努める。</li> <li>・ほ場整備、水源整備、かんがい排水、農道整備事業の生産基盤整備事業を計画的に推進する。</li> <li>・自然災害等の影響を受けやすい地域であり、関係機関とも連携し、農地防風林の整備・管理を促進する。</li> </ul>	

③機械化一貫体系の  
確立

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ①ほぼ 100%ハーベスタ収穫のため、ほ場に硬盤が  
できやすい。
- ②収穫作業と株出管理作業の一貫体系の確立。
  - ・オペレータ技術向上のため、農業機械操作技術  
研修会等を開催した。
  - ・作業の機械化状況を把握するため、さとうきび  
収穫機械稼働状況調査を行った。

【現状】

< 農業機械等の稼働状況（平成 26 年度） >

	稼働台数(台)	稼働面積率(%)
ハーベスタ	4	99.9
株出管理機	1	7
プランタ	30	90

【課題】

- ・効率的な機械収穫のための雑草防除を徹底する必  
要がある。
- ・オペレータの技術向上のため、収穫機械の研修等  
を継続する必要がある。
- ・株出管理機による適期株出管理作業の徹底を図  
る。
- ・すべてのハーベスタが耐用年数を経過しており、  
今後更新する必要がある。

【取組の方向】

- ・オペレータの育成・技術向上
- ・株出管理機の導入
- ・株出管理作業の機械化の推進
- ・農作業委託の推進

【目標】

< 農業機械の等の稼働目標 >

年度	機械名称	稼働台数(台)	稼働面積率(%)
H28	ハーベスタ	5	100
	株出管理機	5	40
	プランタ	30	92
H32	ハーベスタ	5	100
	株出管理機	5	40
	プランタ	30	94

【計画】

- ・農業機械操作技術研修会等を開催し、オペレータの育  
成・技術向上を図る。
- ・栽培講習会等により、株出管理作業等の機械化を促進  
し、適期株出管理作業の徹底を図る。
- ・株出管理機の導入を図り、適期作業を推進する。
- ・適期作業を推進するため、受委託組織の育成を図ると  
ともに、作業の委託推進を図る。



<p>④地力の増進</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊平屋村の土壌は全体的に腐植とリン酸が不足している。現在、本村堆肥センターで製造される堆肥を供給しているが、主原料であるトラッシュの確保が十分でないため、堆肥供給が不十分である。</li> <li>・堆肥散布等における有機質の投入緑肥栽培の普及啓発及び緑肥種子の配布（6月）</li> <li>・土壌分析及び土づくり講習会の実施</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊平屋島の土壌は国頭マージであり、有機質が少ないため、堆肥及びさとうきびトラッシュ等の有機質の投入が必要である。</li> <li>・緑肥種子配布量：1,000kg（30ha分）</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥投入による単収増加効果はすぐには見られないため、農家の土づくりに対する意識は低い。</li> <li>・緑肥等による継続的な土づくりの推進が必要である。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土づくりの意識高揚を図る。</li> <li>・農地への堆肥投入、緑肥栽培を推進する。</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <p>&lt;土壌診断・講習会等の目標&gt;</p> <table border="1" data-bbox="1162 571 1753 675"> <thead> <tr> <th></th> <th>講習会等</th> <th>土壌分析受診率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27（現状）</td> <td>年2回</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>H32（目標）</td> <td>年4回</td> <td>35%</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌・土層改良のため土壌分析を推進し、講習会等により、土づくり意識の高揚を図る。</li> <li>・堆肥散布や緑肥栽培等による有機質の投入を推進する。</li> </ul>		講習会等	土壌分析受診率	H27（現状）	年2回	5%	H32（目標）	年4回	35%	
	講習会等	土壌分析受診率										
H27（現状）	年2回	5%										
H32（目標）	年4回	35%										

(3) 技術対策

項目	現状及び課題	目標及び計画	備考						
<p>①栽培技術の普及等</p>	<p><b>【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 培土時期が早い傾向にあるので茎数確保のためには適期肥培管理に努める必要がある。株出管理作業は遅れる傾向にあり、収穫後直ちに株出管理作業が出来る体制整備が必要である。</li> <li>・ ハーベスタ収穫後のサブソイラ等による心土破碎を啓発している。</li> <li>・ 植付時における基肥の普及・啓発</li> <li>・ 牽引型管理機とロータリ型管理機の実証展示ほの設置</li> </ul> <p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 依然として培土時期が早い傾向にあり、茎数確保が十分にできていない。</li> <li>・ 植付や株出管理作業が遅れる傾向にあり、単収の低下を招いている。</li> <li>・ 基肥を投入しない農家が多く、芽だし肥えの際に投入することが基本となっている。</li> <li>・ 梢頭部を利用した補植を行っている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほぼ 100%機械収穫のため、硬盤がしやすい。</li> <li>・ 適期肥培管理等の栽培技術の徹底が重要である。</li> <li>・ 牽引型管理機を利用した肥培管理作業を推進する必要がある。</li> <li>・ 受託組織との連携不足による作業の遅れ。</li> </ul>	<p><b>【取組の方向】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 心土破碎による土壌物理性の改善</li> <li>・ 基本栽培技術の周知・徹底</li> <li>・ 牽引型管理機による肥培管理作業の普及推進</li> </ul> <p><b>【目標】</b></p> <p>&lt;農作業受委託の目標&gt;</p> <table border="1" data-bbox="1162 751 1729 868"> <thead> <tr> <th></th> <th>受託組織への株出作業受委託率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27 (現状)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>H32 (目標)</td> <td>50%</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>【計画】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械収穫後にサブソイラ等での心土破碎を推進する。</li> <li>・ 基本栽培技術の農家への周知徹底を図るため、栽培技術講習会を実施するとともに、巡回指導を強化する。</li> <li>・ 牽引型管理機による肥培管理作業普及のため、実証展示ほを設置する。</li> </ul>		受託組織への株出作業受委託率	H27 (現状)	0%	H32 (目標)	50%	
	受託組織への株出作業受委託率								
H27 (現状)	0%								
H32 (目標)	50%								

②優良品種の選択・普及

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ①適正品種の選定に係る取り組みが十分ではない。
- ②健全無病苗に対する農家の意識が十分ではない。
  - ・原種ほを設置し、無病健全苗の供給と普及に努めた。(農林15号、農林17号、農林29号等45a：優良種苗安定確保事業)
  - ・さとうきび品種検討会を開催した。

【現状】

<品種別作付面積割合(%)の推移>

品種	年度				
	H23	H24	H25	H26	H27
Ni9	5.1	1.7		3.7	
Ni15	77.7	40.0	24.3	54.2	25.3
Ni17	1.1	6.6	17.7	5.6	33.3
NiTn20	11.3	12.4	9.7	11.9	8.8
Ni22		4.4	14.4	4.0	12.4
その他	4.8	34.9	33.9	20.6	20.2

- ①原種ほ (50a)、採苗ほ (14.1ha)
- ②品種実証ほ (1,500 m<sup>2</sup>)

【課題】

- ・健全無病苗の利用に対する生産農家への啓発を強化する必要がある。
- ・黒糖向け品種、台風及び干ばつ等に強い品種の導入のため、品種選定試験等の実施が必要である。

【取組の方向】

- ・健全無病苗の利用推進
- ・黒糖向け品種、台風、干ばつ等に抵抗性のある品種の選定・普及

【目標】

- ①品種構成について
  - ・健全無病苗の利用による生産性向上を推進する。
  - ・黒糖向け品種、耐風性、耐干ばつ性に優れる品種の選定・普及推進を図る。

【計画】

- ・引き続き健全無病苗の利用に対する生産農家への啓発を継続する。
- ・黒糖向け品種や台風、干ばつ等に抵抗性のある品種を選定するため品種選定試験を実施し、伊平屋村さとうきび奨励品種を定め、普及推進を図る。

③病害虫対策

【前計画策定時の課題及びそれに対する取組結果】

- ①病害虫に抵抗性のある品種の導入が必要である。
- ②適期防除、一斉防除が必要である。
  - ・イネヨトウ防除対策としてスミチオン、スミバツサなどの薬剤散布の実施
  - ・イネヨトウ防除講習会の開催
  - ・病害虫防除に関する技術講習会の開催
  - ・バッタの一斉防除

【現状】

①病害虫被害について

病害虫名	被害状況
メイチユウ	年3回発生。
カンジャコハネガカムシ	年1回発生。発生率も高い。
アトウガネ	年1回発生。成虫の飛来も多い
タイワツチイコ	干ばつ時に発生。

②対策の実施状況について

病害虫名	対策の実施状況
メイチユウ	薬剤散布及び交信攪乱剤設置
カンジャコハネガカムシ	薬剤散布
アトウガネ	薬剤散布
タイワツチイコ	薬剤散布

【課題】

- ・イネヨトウの被害が増え、農薬散布等にかかる農家の負担が増加している。
- ・干ばつ時は、バッタによる被害が大きくなるので、適期防除を啓発する必要がある。
- ・アトウガネの幼虫による立枯被害や株出不萌芽が増加しており、成幼虫に対する防除方法の確立、普及が必要である。
- ・夏植主体から株出主体へ移行するにあたり土壌害虫の防除対策が必要である。

【取組の方向】

- ・病害虫の早期防除対策を推進する。
- ・病害虫発生状況の迅速な情報共有を図る。
- ・病害虫一斉防除の実施を推進する。

【目標】

①病害虫対策の実施目標について

- ・農家単位による薬剤散布及び、支部単位による共同防除の実施。

病害虫名	対策	実施
メイチユウ	薬剤散布及び交信攪乱剤設置	年2回
カンジャコハネガカムシ	薬剤散布	年2回
アトウガネ	薬剤散布	年2回
タイワツチイコ	薬剤散布	年2回

【計画】

- ・発生予察情報による早期防除対策を推進する。
- ・健全無病苗による植付と苗の消毒を啓発する。
- ・病害虫防除講習会等により、効果的な防除法の周知に努める。
- ・病害虫被害軽減のため、誘殺トラップ等による調査を行い、早期防除や共同防除を推進する。
- ・病害虫の一斉防除を行うため、関係機関との体制づくりを強化する。

2. さとうきび増産に向けた取組の推進体制について

<p>①さとうきび増産に向けた取組推進体制</p>																												
<p>②関係者の役割分担</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">参画機関</th> <th rowspan="2">担うべき役割</th> <th colspan="3">具体的取組方策</th> </tr> <tr> <th>経営基盤の強化</th> <th>生産基盤の強化</th> <th>技術対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 786 775 1066">伊平屋村農林水産課</td> <td data-bbox="775 786 1099 1066">                     ① プロジェクト会議の事務全般                      ② 事業導入及び予算等の事項                      ③ 県プロジェクト会議との調整等                      ④ さとうきび増産に関する事項全般                 </td> <td data-bbox="1099 786 1424 1066">                     ① 受託組織の育成・強化                      ② 共済加入の促進                      ③ 認定農業者の認定                 </td> <td data-bbox="1424 786 1749 1066">                     ① 事業導入計画                      ② 水源の確保                      ③ 農地防風林の整備                      ④ 土づくり対策                 </td> <td data-bbox="1749 786 2096 1066">                     ① 展示ほの設置                      ② 優良種苗の増殖普及                      ③ 病虫害防除対策                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1066 775 1169">農業委員会</td> <td data-bbox="775 1066 1099 1169">                     ① 農地の流動化等に関する事項                      ② 担い手農家の育成確保                 </td> <td data-bbox="1099 1066 1424 1169">                     ① 農地の流動化の促進                      ② 耕作放棄地の解消                 </td> <td data-bbox="1424 1066 1749 1169"></td> <td data-bbox="1749 1066 2096 1169">                     ① 農家巡回指導                 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1169 775 1348">JA おきなわ伊平屋支店</td> <td data-bbox="775 1169 1099 1348">                     ① 生産組織・受託組織の育成確保                      ② 生産性向上の推進に関する事項                      ③ 農家への普及啓発活動等                 </td> <td data-bbox="1099 1169 1424 1348">                     ① 生産組織の支援                      ② 受託組織の育成                      ③ 共済加入の促進                 </td> <td data-bbox="1424 1169 1749 1348">                     ① 機械等の事業導入                      ② 生産資材等の提供                 </td> <td data-bbox="1749 1169 2096 1348">                     ① 優良種苗の導入検討                      ② 農家巡回指導                      ③ 展示ほ設置協力等                 </td> </tr> </tbody> </table>	参画機関	担うべき役割	具体的取組方策			経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策	伊平屋村農林水産課	① プロジェクト会議の事務全般 ② 事業導入及び予算等の事項 ③ 県プロジェクト会議との調整等 ④ さとうきび増産に関する事項全般	① 受託組織の育成・強化 ② 共済加入の促進 ③ 認定農業者の認定	① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農地防風林の整備 ④ 土づくり対策	① 展示ほの設置 ② 優良種苗の増殖普及 ③ 病虫害防除対策	農業委員会	① 農地の流動化等に関する事項 ② 担い手農家の育成確保	① 農地の流動化の促進 ② 耕作放棄地の解消		① 農家巡回指導	JA おきなわ伊平屋支店	① 生産組織・受託組織の育成確保 ② 生産性向上の推進に関する事項 ③ 農家への普及啓発活動等	① 生産組織の支援 ② 受託組織の育成 ③ 共済加入の促進	① 機械等の事業導入 ② 生産資材等の提供	① 優良種苗の導入検討 ② 農家巡回指導 ③ 展示ほ設置協力等				
参画機関	担うべき役割			具体的取組方策																								
		経営基盤の強化	生産基盤の強化	技術対策																								
伊平屋村農林水産課	① プロジェクト会議の事務全般 ② 事業導入及び予算等の事項 ③ 県プロジェクト会議との調整等 ④ さとうきび増産に関する事項全般	① 受託組織の育成・強化 ② 共済加入の促進 ③ 認定農業者の認定	① 事業導入計画 ② 水源の確保 ③ 農地防風林の整備 ④ 土づくり対策	① 展示ほの設置 ② 優良種苗の増殖普及 ③ 病虫害防除対策																								
農業委員会	① 農地の流動化等に関する事項 ② 担い手農家の育成確保	① 農地の流動化の促進 ② 耕作放棄地の解消		① 農家巡回指導																								
JA おきなわ伊平屋支店	① 生産組織・受託組織の育成確保 ② 生産性向上の推進に関する事項 ③ 農家への普及啓発活動等	① 生産組織の支援 ② 受託組織の育成 ③ 共済加入の促進	① 機械等の事業導入 ② 生産資材等の提供	① 優良種苗の導入検討 ② 農家巡回指導 ③ 展示ほ設置協力等																								

	JA おきなわ伊平屋支店製糖工場	① 実証展示ほ設置等への協力 ② 優良品種導入等への協力 ③ バガス、ケーキの供給 ④ その他生産向上対策への協力	① 受託組織の育成 ② 共済加入の促進	① 生産基盤整備等への協力	① オペレータ講習会の開催
	生産農家	① 栽培技術講習会等への参加 ② 実証展示ほ設置協力等	① 生産組織への加入 ② 共済への加入	① 増産対策への協力	① 実証展示ほ設置等への協力 ② 栽培指針の遵守
	北部農林水産振興センター 農業改良普及課	① 生産技術及び事業導入に関する事項 ② 県行政との調整に関する事項 ③ 生産組織の支援等に関する事項	① 生産組織の育成指導 ② 農家経営指導等 ③ 共済加入促進指導	① 事業導入等への協力 ② 事業効果の検証及び事後指導	① 展示ほの設置、指導 ② 品種構成の指導 ③ 技術講習・実演会 ④ 土壌分析調査等
	沖縄県農業共済組合 (北部支所)	① 共済加入促進に係る事項	① 加入促進説明会の開催		
③毎年度の検証方法・体制	毎年度操業終了後に、参画機関による評価会議を開催し、生産実績や取組結果等について報告、評価し、次期取組の課題、役割分担を整理する。				

(参考情報)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

伊平屋村は沖縄県最北端、東シナ海の養生に浮かぶ離島村である。北緯 27 度 2 分、統計 127 度 58 分に位置し、県都那覇市より北へ 17km、フェリー発着の運天港より 41.1km の距離にあり、伊平屋島、野甫島の 2 島からなる。

村の総面積は、21.72 km<sup>2</sup>で、その約 68%を山林原野で占め、約 22%が農耕地である。

気候は、温暖な亜熱帯気候に属し、年間平均気温 22.7℃、年間降雨量は 1,793mm で比較的多雨地域であるが、梅雨期と台風襲来時に集中しており、夏から秋にかけては、しばしば干ばつに見舞われる。

風状は、年間平均風速 4.7m/s で、月平均では 10 月から 3 月までが 5.2m/s、4 月から 9 月までが 4.3m/s となっている。風向は年間を通じて北北東方向、寒気は北西方向、暖気は南南東方向である。

地勢は、島の中央部を東北より西南に 200m 前後の山岳群が連なり、傾斜は極めて急である。地質は、古世層を主とした粘板岩の礫層及び硅岩で形成され、一部は隆起珊瑚礁からなり、伊平屋島は国頭マーヅ土壌、野甫島は島尻マーヅの土壌である。

伊平屋村の農業生産は、さとうきび、水稻を基幹作物とし、次いで肉用牛、野菜等の生産が行われている。また、最近では、果樹及び施設園芸が意欲的に取り組まれている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

【近年の作物別作付面積の動向、さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移】

(1) 作物別作付面積の動向

(単位：ha)

	耕地面積	作付面積	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	果樹	飼料作物	その他
H17	309	316	157	3	127	8	2	17	2
H18	301	322	156	1	127	8	2	23	5
H19	308	326	164	1	121	8	2	24	6
H20	309	331	168	3	121	8	2	29	5
H21	342	344	176	9	109	13	3	29	5
H22	347	344	176	10	92	21	4	34	7
H23	345	318	159	5	90	14	4	40	6
H24	344	317	162	3	88	12	3	43	6
H25	345	294	147	2	80	11	2	48	4
H26	348	331	178	6	77	14	4	48	4

## (2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収 穫 面 積 (ha)				単 収 (t / ha)				生 産 量 (t)				糖 度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	57	3	7	67	36.9	26.1	22.7	35.0	2,111	73	152	2,336	12.60
H18	65	4	5	75	48.5	26.5	40.1	46.7	3,171	108	200	3,479	14.50
H19	67	3	20	90	60.7	46.4	45.4	56.9	4,090	135	909	5,134	15.20
H20	44	5	35	85	66.6	36.0	50.2	57.8	2,946	193	1,772	4,911	15.20
H21	60	6	40	105	48.6	32.6	43.3	45.7	2,908	181	1,720	4,809	14.70
H22	58	6	30	93	47.9	27.5	49.8	47.4	2,778	153	1,481	4,412	14.30
H23	37	12	29	78	27.7	16.0	18.6	22.4	1,013	200	544	1,758	14.50
H24	54	12	28	94	33.9	25.0	21.1	28.9	1,826	311	600	2,737	12.00
H25	37	3	27	67	35.6	20.7	22.8	29.7	1,306	69	610	1,985	14.00
H26	63	8	35	106	38.3	20.0	24.9	32.5	2,412	162	867	3,441	14.00

## 【年齢階層別農家戸数】

(単位：人)

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
H17	—	1	16	16	27	60
H18	—	1	15	16	29	61
H19	2	2	15	22	30	71
H20	1	2	11	23	34	71
H21	—	1	8	15	34	58
H22	—	1	7	14	34	56
H23	—	—	6	18	30	54
H24	—	—	4	21	33	58
H25	—	—	2	16	32	50
H26	—	—	2	19	32	53



【経営（収穫）規模別農家戸数】

(単位：戸)

	100a 未満	100～300a 未満	300a～500a 未満	500a 以上	合計
H17	23	36	12	3	74
H18	23	34	4	—	61
H19	28	28	4	—	60
H20	28	28	4	—	60
H21	16	26	7	2	51
H22	21	30	8	2	61
H23	22	26	7	2	57
H24	23	26	7	2	58
H25	6	31	12	2	51
H26	17	26	10	3	56

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	46.72	47	12.91	26.70
H18	69.58	62	14.33	22.93
H19	102.68	91	15.13	20.39
H20	98.22	89	14.30	20.31
H21	96.18	90	13.54	21.64
H22	88.24	76	13.59	20.99
H23	35.16	34	11.76	26.44
H24	54.74	55	11.57	29.66
H25	39.70	41	12.68	26.53
H26	68.83	66	13.54	25.10